

1 自己評価及び外部評価結果

(別紙4)

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2473300057		
法人名	社会福祉法人 青山福祉会		
事業所名	グループホーム森の里		
所在地	伊賀市腰山1135		
自己評価作成日	令和5年1月19日	評価結果市町提出日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_pref_search_list=true
----------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会		
所在地	津市桜橋2丁目131		
訪問調査日	令和6年2月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

毎日曜日のレクリエーション活動（合同・個人）を行っている事。時間を作り、園内散歩を行い、他ユニットとの交流（挨拶等）を行っています。笑顔で接し笑顔がcaえてくる事。毎月の近況報告で生活の様子が分かるように記載し、「様子が手に取るように分かりやすい」とお声を頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

当事業所は周りを自然豊かな木々に囲まれた広大な敷地内にあり、同一経営法人による通所介護、グループホーム、特養、ショートステイ、居宅介護支援事業所が隣接している総合的な老人福祉施設である。付近に民家は疎らであるが地域の方々と共に高齢者の生活をサポートしている。昨年、コロナ感染症のクラスターが発生し多くの利用者や職員が陽性になる中、残った職員が必死の思いでケアにあたりコロナ禍を乗り越えることが出来た。職員は10年以上の勤務者が多くチームワークも良く助け合いの精神で、きめ細かい支援や介護の連携で利用者の不安を取り除いている。昨夏、台風時の40時間停電は事業所初であったが全職員のバトンリレーで乗り切り、残った多くの災害課題は運営上、大切な検討材料となった。今後も事業所の重点目標を土台にして施設長・管理者・職員は理念を目指して前向きに取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)- です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の共有は常に行い、報告・相談し実践している。	職員皆の想いで作った事業所独自の理念を玄関・ユニットなど目の付く所に掲示している。職員は理念に沿って利用者本位の気持ちで家庭的で和やかな雰囲気支援を実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在も家族以外の出入りは、行ってないが地域の作品展に出品し、関係性を維持できるように努めている。	コロナ禍が収まりつつあるが地域住民との交流は殆んどしていない。地域の情報は2名の民生委員を通じて得ることが出来ている。今年も利用者の手作り作品を地域の文化展に出品している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議・法人の広報誌を通して状況を伝えている。地区の会議に参加し伝える事がある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議を継続しており、報告を行い意見交換を行っている。管理者1人だけでなく職員も参加している。	コロナ禍の中でも行政・民生委員・地域住民・利用者家族等の参加で6回、継続して開催した。利用者状況、事業所の行事、研修会報告等の他、議題検討に対する意見交換も多く、それらをサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	何かあれば連絡・相談を行い研修をHPにのせてもらったり、直接、グループホームにメールを頂いている。	運営推進会議に2名の参加を通じて研修会やイベント等の情報をメールでもらったり、各種の手続きや連絡・相談に出向いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事故防止委員会（身体拘束・高齢者虐待・事故・ヒヤリ）を3ヶ月に1度開催し、各会議にて研修を行っている。	身体拘束適正化委員会を3か月毎に開催している。毎月のリーダー会議や各ユニット会議で拘束（身体・言葉）虐待防止について、外国人の受け入れも含めて研修している。拘束について全職員が理解し拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	3ヶ月毎の研修や毎月の会議の中で話し合い防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い、理解して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月、近況報告を行っている。受診前後に連絡を入れている。	窓越し面会から短時間の居室内面会になり家族の訪問が増えた。家族には毎月「たより」を通じて利用者の近況報告をし、意見・要望を聞く工夫をしている。今年も家族アンケートを予定している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議や個別にも意見や提案を聞いている。	年1回、上司との個別面談があり職員の思いを聞いている。職員から出された提案や意見は、即検討し、運営に反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	正職員は人事考課を行っている。非正規は年1度業務評価を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	エルダーメンターを取り入れている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス協議会に参加している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サマリー・フェースシートを活用しながら関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	より良い関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要としている物を見極め、努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	同一の関係を築けるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員と共に本人を支える関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や電話、葉書等を行い関係を維持している。	現状においてホーム外の人や場の関係継続は難しいが、日曜日に1時間ほどユニット合同でレクレーションをしながら交流している。2名の携帯保持者が定時に家族と話せる支援もしている。今年は年賀状も出した。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	目配り、気配りを行い良い関係が築けるように橋渡しをしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	経過のフォローを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の会話の中から思いを汲み取り、日誌に記載し共有し検討している。	利用者に寄り添い、その人を知り、小さなつばやきを聞き、思いを代弁できるように利用者個々の思いや意向を把握した「自分史」を作り活用し、一人ひとりに合った支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	モニタリングを行い、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃の身体の状態等を見極め、その方に合ったペースで介助を行い、把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の参加はないが、ユニット会議の中で話し合っている。	「自分史」と利用者の介護状況、家族、担当職員の意向も取り入れながら、毎月のユニット会議で話し合っってモニタリングへと移行し、現状に即した介護計画を作成している。状態に変化があれば、医師・家族の意向も踏まえ、計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌に記入し共有、会議で検討して見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	意見を聞き、取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在は家族の面会のみになっているが、職員が地域で仕入れた事を共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	体調管理を行いながら主治医に相談し受診へと繋げている。家族にも報告を入れている。	利用者全員が個々のかかりつけ医を持ち、職員が受診に出かけている。看護師は職員として配置され介護と共に日々の健康管理や24時間、医師への連絡などスムーズに行い家族の安心に繋がっている。夜間・緊急時は主治医の指示の下、的確な医療支援をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態観察を行い、連絡・相談・報告を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	事前サマリーを作成しており、情報や相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した対応、方針、看取りについて等契約時の時点で説明を行っている。	入居時に事業所としての方針を説明している。重度化や終末期の支援の在り方についても再度話し合い、家族からの要望（老衰など）がある場合は看取り支援をしている。職員も施設内研修を受け理解している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	各マニュアル作成し把握を行い各会議等でその時はどうするのか訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練・通報訓練・伝達訓練を行い、昼・夜での対応のマニュアルを作成し協力体制を築いている。	昨年夏の停電40時間を教訓に年2回、災害マニュアルに沿って昼・夜を想定し避難訓練を実施している。事業所は木造なので煙から逃げる方法や隣接の特養への誘導経路の確認、生活必需品の備蓄日数等職員の役割を取り決め周知を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけや対応を話し合い、職員間で気づきを議題に上げている。 落ち着いて対応できるように努力している。	排泄時や入浴時、居室の出入りには羞恥心やプライバシーを損なわないよう心掛けている。日頃の何気ない一言で利用者を傷付ける事の無いように職員間で話し合い、接遇マナーを研修している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意見が出せる関係を作り心が開けられる関係を持つように努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にしなければと十分分かっているが、業務を優先しがちな時もあり葛藤がある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時・入浴後、身だしなみを行い鏡を見てもらっている。(理髪サービス)		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配食サービスを行っているが、誕生日は好みの食事、行事食等を職員が手作りしている。食器の片付けを行ってもらっている。	ご飯・汁物は職員が作り、おかずは配食サービスを利用している。個々のリクエストの誕生日食は職員の手作りで祝っている。コロナ禍で家族参加は中止している。秋の収穫(さつまいも)祭は利用者全員の楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養スクリーニングを行っている。一人ひとりの状態を把握して支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月一の口腔チェック、個々に付き添い口腔ケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄チェック表を把握し、誘導・介助を行っている。布パンツのみ1名。布パンツ+ライナー・パット使用6名。紙パンツ・パット2名。	全職員が排泄パターンを把握していて、声掛け・誘導・見守りを行いながら排泄介助に取り組んでいる。常に自立支援を心掛け介助は最低限にしている。夜間のみセンサー利用者が数名いる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食時・入浴後に牛乳提供。水分強化し散歩を一緒に行っている。排便なしのチェックも行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴日は決定しているが、その状況に合わせ、臨機応変に対応している。1名は曜日を決めず入浴できる時に入っている。	週2回を基本としているが、毎日、入浴する利用者もいる。アレルギー体質なども考慮して入浴剤は使用しないが、季節のゆず湯や菖蒲湯は大変喜ばれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	13時からのお昼寝や、入眠前のアンカ・電気毛布を使用している。就寝時はコンセントを抜いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬マニュアルや服薬の症状の確認を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	フェースシートを把握し、できる表を作成し取り組んでいる。(煙草・洗濯物たみ・食器拭き・宝くじ)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出は受診のみであるが、園外での散歩を行っている。	コロナ禍で日常的に戸外へ出ることは中止しているが、受診時のドライブ、窓越しに見る敷地内の花見、裏山の眺め等でストレスを発散してもらう工夫をしている。職員のユニークな発案で室内レクに力を入れている。	新型コロナが5類になったことでもあり、外出可能に向けての準備として、管理者・職員の提案や利用者の要望も取り入れ、外出の機会を増やして利用者の笑顔を満たすことを期待する。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所で預かっている。宝くじの購入有り。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や葉書、年賀状のやり取りを行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の壁画、今年の目標、書初めの展示 居室前には本人が作成された飾りを付けています。	リビング兼食堂には天窓があり日当たりは良好で、毎日、換気をしている。壁には季節感あふれる利用者の手作り作品が貼ってあり、家庭的な環境の中で寛いで暮らせる工夫が随所で見られる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビを一緒に観たり、雑談し盛り上がっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物を持って来てもらったり、写真や誕生日カード、作成したものを飾っています。	事業所としてエアコン、洗面台、ベッド、クローゼットが設置されている他は、利用者の使い慣れた家具やお気に入りの写真などを飾り、ゆっくりと過ごせる居心地の良い居室となっている。どの居室も掃除が行き届いていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	分かりやすく使いやすい様子に書いている。 できる事の把握を行い、生活の支援を行っている。	/	/